

第1回:ガイダンス

授業のねらい

- コンピュータとネットワークの基礎知識と、コンピュータの基礎操作を確実に身につける

1 回の授業の基本的な内容

- 前半： 前回授業の復習や補足，小テストなどをおこないます。その後，新しいトピックについて，解説と基本練習をおこないます。
- 後半： 課題実習をおこない，教師（または TA）のチェックを受けて終了です。

授業計画

回	予定日	内容
1	10/3	ガイダンス※TQ のみ不合格の履修者も出席する
2	10/10	文字入力の基本, TQ 履歴とレポート提出 ※TQ のみ不合格の履修者も出席すること
3	10/17	電子メール (Gmail) とネットワークの活用 (概説と基礎練習)
4	10/24	TQ 試験 (1) ※TQ のみ不合格の履修者の試験も実施
5	10/31	WWW, ネットワークと電子メールの利用実習 (1)
6	11/7	WWW, ネットワークと電子メールの利用実習 (2)
7	11/14	中間テスト, TQ 試験 (2) ※TQ のみ不合格の履修者の試験も実施
8	11/21	Word 2007 を使った文書作成・編集 (1)
9	11/28	Word 2007 を使った文書作成・編集 (2)
10	12/5	Word 2007 を使った文書作成・編集 (3)
11	12/12	Excel 2007 を使った表計算 (1)
12	12/19	Excel 2007 を使った表計算 (2)
13	1/16	総合課題の制作
14	1/23	まとめ小テストと自己評価レポート提出
-	1/30	(予備日, 期末試験期間)

成績の評価：原則として，以下の評価を総合し単位を認定する

- 出席：評価の大前提となりますので注意してください。**合計 5 回休んだ場合には単位の取得はできない**と考えてください。なお，遅刻は 0.5 回分の欠席とカウントします。
- **授業は 9:20 から開始します。**ただし，TQ 試験に合格していない人は原則として

9:00 に集合して TypeQuick の練習をしてください。TQ 試験に合格した人も、9:20 までに入室しなかった場合は遅刻となります。

- 毎回授業で扱うトピックが異なります。遅刻・欠席に注意し、毎回出席するようにしてください。
- 課題：授業で出す実習課題は原則として授業時間内に消化してもらい、作業の結果を教師がチェックします。また、時々簡単な宿題や小テストを課します。
- TypeQuick：試験は 2 回実施します（授業計画の日程を参照してください）。合格の目安は **27 ワード/分以上かつ正確率 90%以上** です。毎回の授業の始めや課題終了後の残り時間、その他の授業の休み時間や放課後の時間を積極的に練習に充ててください。**TypeQuick に合格しない限り、原則として単位は認められません。**
 - タイピング練習ソフト TypeQuick は、大学 PC にあらかじめインストールされています。1・2 年生は全員登録されており、前期授業の練習記録はサーバ上に蓄積されていきます。3 年生以上の履修者でアカウントが登録されていない場合は今週中におこないます（昨年度までに R クラスを履修した人はアカウントが削除されていることがあります。その場合は申し出に基づき今週中にアカウントを再度登録します）。

確認事項

- Windows XP へのログオン・ログオフ（シャットダウン）
- TypeQuick の起動と設定の確認
- 「再履修にあたっての調査票」を記入して提出

次週の予定

- パソコンの基本的な操作方法、文字の入力方法を確認する。
- 文字入力課題をおこなう。
- TypeQuick の練習をおこない、これまでの履歴と小レポートを提出する。

担当者連絡先

千葉 庄寿（CHIBA Shoju, ちば しょうじゅ）

研究室：生涯教育プラザ棟 P302 号室、電話 04-7173-3019

E-mail：schiba@reitaku-u.ac.jp（右の QR コードも使えます）

Office Hour：月曜 5 時限目および金曜昼休み～3 時間目（場所：生涯教育プラザ棟 3 階研究室 P302）



※研究室に常に在室しているとは限らないので、あらかじめメール等でアポイントメントをとることをおすすめします。

※授業に関するメールを出すときには、自分の所属、名前のほか、リテラシー R クラスの授業に関するメールであることを明記してください。

授業ホームページ：第 3 回の授業から使用します。

※授業ホームページには、授業の関連情報や課題に関する情報を載せます。第 3 回授業では WWW の利用法について簡単に説明し、授業ページの活用方法を詳しく解説します。第 5 回および第 6 回で、WWW の実践的な活用法について実習します。